

# 審査を終えて（小学校の部）

令和6年1月27日 本部書写委員会

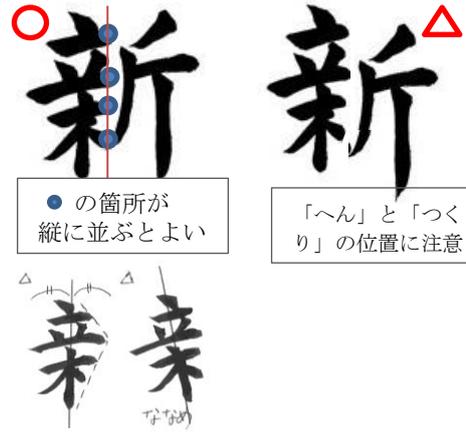
年 齢	詢	審 査 員 か ら の コ メ ン ト		
小 学 校 三 年	お 正 月	お	<p>① 二画目の「はらい」の方向と筆使い</p> <p>△三画目の点ではなく、下の方向にはらっているものがありました。また、曲がりの途中で急に折れてしまっているものも目立ちました</p> <p>△「はらい」の筆使いが荒く、かすれて、ばさばさになっているものがありました</p> <p>・筆の穂先がまとまるように練習してみましょう。また、最後までゆっくり丁寧にはらうことを心がけましょう。</p>	 <p>△</p> <p>方向と長さ      かすれ、ばさばさ      はらっていない</p>
			<p>② 横画・縦画の始筆・終筆の筆使い</p> <p>○始筆、終筆がよくできているものが多かったです。特に、横画の始筆がよくできていました。</p> <p>△終筆の止め方が不十分なものがありました。また、筆を立てずに寝かせたまま運んでいるものもありました。</p> <p>・始筆・終筆は基本的な筆使いです。「トン、クイツ、スー、ピタ」のリズムで、繰り返し練習をし、身に付けましょう。</p>	 <p>△</p> <p>始筆・終筆の止めが不十分</p>
			<p>③ 二画目の「おれ」の筆使い</p> <p>△止め方が不十分で、「おれ」ではなく、「曲がり」になっているものや、筆を回して運んでいるものが目立ちました。</p> <p>△筆を立てずに運び、「おれ」角が直角のようになっているものもありました。</p> <p>・横画よりも縦画が太くなるよう、しっかり止めてから、折るようにしましょう</p>	 <p>△</p> <p>曲がりになっている      おさえすぎ      筆が立っていない</p>
			<p>④ 三画目の「はね」の筆使い</p> <p>△筆を止めた後、そのまま筆を返して折れたようにはねているものがありました。止めたところも、「はね」もばさばさしたようになっていました。</p> <p>△「はね」が強すぎたり、弱すぎたりしているものがありました。筆を回して止めているような「はね」もありました。</p> <p>・はねる方向へ丁寧に筆を押し上げ、筆をまとめるようにゆっくりとはねるとよいでしょう。</p>	 <p>△</p> <p>弱すぎる</p> <p>ばさばさ止めている      筆を返したはね      筆を残したまま止めている</p>
		正		
		月		

学年	詢	審査員からのコメント	
小学校四年	美しい心	美	<p>①横画の長さや間隔と、九画目の「はらい」</p> <p>○全体的によくできていました。三、五、六画目と七画目の長さの違いが意識されていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横画の始筆、終筆を丁寧に書くようにするとさらによいでしょう。</li> </ul> <p>○九画目のはらいについて、しっかりと止まって右横へはらおうとしている作品が多くありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・止めたりはねたりせず、最後まで丁寧にはらうことを心がけるとさらによいでしょう。</li> </ul> 
	美しい心	し	<p>②「はらい」の方向と筆使い</p> <p>○全体的によくできていました。方向に気を付けて丁寧にはらっている作品が多くありました。</p> <p>△曲がりの部分が急になり、はねるようになっている作品や、はらいの部分が長すぎる作品、はねの方向が内側に向きすぎたり、外側に開きすぎたりしている作品も見られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始筆に気を付けて書くとさらによいでしょう。</li> </ul> 
	美しい心	い	<p>③一画から二画へのつながりと位置</p> <p>○全体的によくできていました。二画目へのつながりと位置を意識した作品が多く、形の整った「い」になっていました。</p> <p>△二画目の位置が、一画目の始筆の位置より下に下がってしまう作品、一画目が曲がりすぎている作品が見られました。</p> 
	美しい心	心	<p>④二画目の「はね」の方向と筆使い</p> <p>○しっかりと止めてからはねようとしている作品が多くありました。</p> <p>△はねの方向が、三画目へとつながらない作品がありました。内側すぎたり、外側すぎたりする作品が見られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二画目の曲がりの形に気を付けること、四画目の始筆の位置を二画目の始筆の位置より上に書くようにすることを意識するとさらに形が整うでしょう。</li> </ul> 

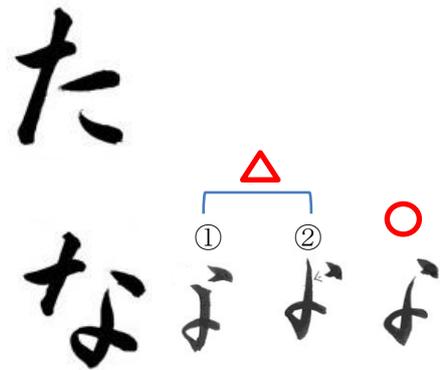
小学校  
五年  
新  
た  
な  
道

新  
た  
な  
道

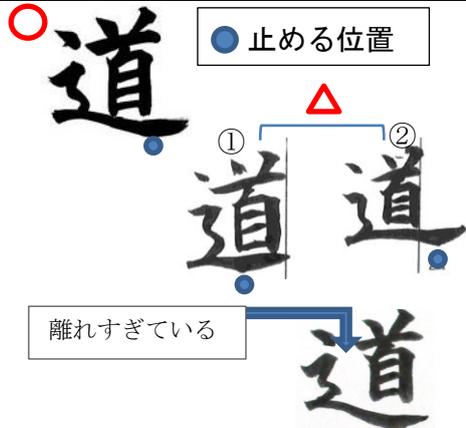
① 「へん」と「つくり」の組み立て  
○ 「へん」と「つくり」を寄り添うように書いていました。  
△ 「へん」が左に傾いているものがありました。  
△ 「立」「木」が「へん」になったときの形の変化(へんの中心)ができていないものがありました。  
△ 八画目、十二画目の書き出しの位置が正しくないものがありました。正しい字を活字等で確認してから書くのもよいでしょう。  
△ 七画目の終筆をはらっているものが少し目につきました。しっかりとめます。



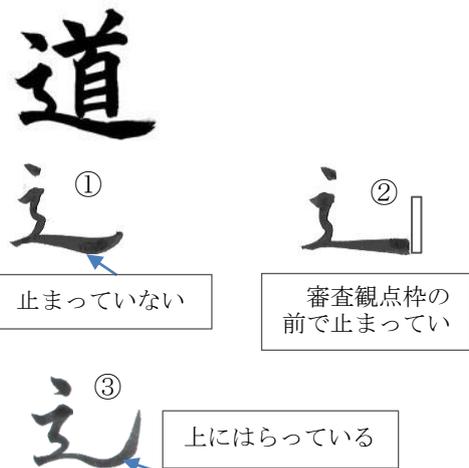
② 三画から四画へのつながり  
○ 「た」のつながりは、よくできていました  
△ 「な」の四画目の起筆について、①②のようなものが多く見られました。  
① 漢字の縦画のように書いてしまっている  
② 三画目が下がっている  
・ 四画目の起筆の筆先は、三画目の方を向くように受けて書くとよいでしょう。  
※ 「ら」の一・二画のつながりと同じ動きです。

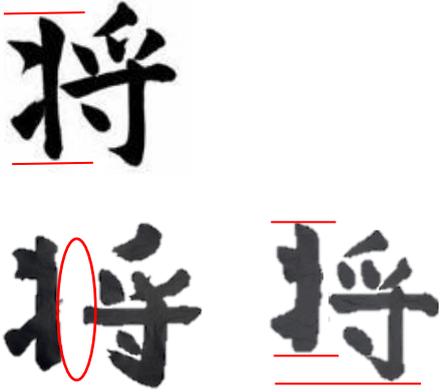
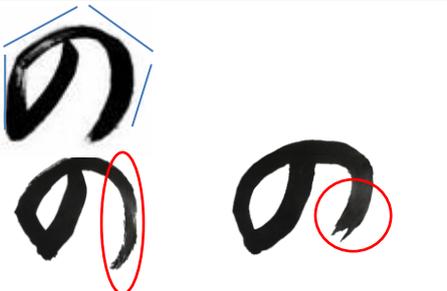
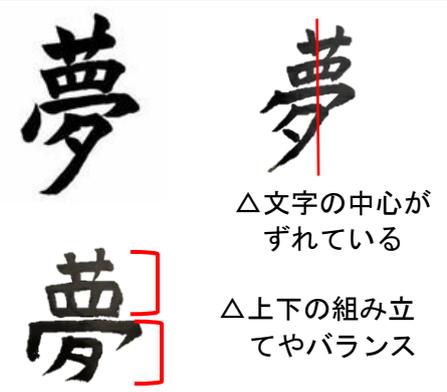


③ 「首」と「しんによう」の組み立て  
○ 「首」と「しんによう」の位置関係や大きさのバランスがうまく書けていた作品が多くなりました。  
△ 「しんによう」の横幅が長すぎたり短すぎたりする作品がありました。  
・ 「しんによう」の終筆部の止めの位置が「首」の六画目の下にくると字形が整います。  
△ 「首」「しんによう」が上手に書けているが、離れすぎているのが目立ちました。



道  
④ 「しんによう」の筆使いと「はらい」の方向  
○ 「はらい」の方向がよくできていました。  
○ 「しんによう」の書き方をよく練習してあるものが多かったです。三画目の起筆で筆を軽くついてから動き出すことや、はらう前に止まってから払うという筆使いができていたものが多かったです。  
△ 「はらい」がよく練習してありましたが、次のようなものも目立ちました。  
① 終筆部の止めがなくはらってある。  
② 観点枠を気にして、途中ではらうことをやめている。  
③ 止まらずにはね上げている。



学年	詢	審査員からのコメント	
小学校 六年	将 来 の 夢	<p>① 「へん」と「つくり」の組み立て</p> <p>○よく手本を見て部分の組み立て方を観察し、バランスよく書いている作品が多かったです。</p> <p>△「へん」と「つくり」の間が空いていたり、上下にずれていたり、全体的に文字が右へずれていたりする作品がありました。</p> <p>△一画目縦画の始筆をトンときちんと入れましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の中心と「へん」と「つくり」の境の関係を確認し、「へん」と「つくり」のバランス、「つくり」の上下のバランスをとれるようにするとよいです。</li> </ul>	 <p>△へんとつくりが離れている</p> <p>△へんとつくりが上下にずれている</p>
将 来 の 夢	来	<p>② 二画から三画へのつながりと「はらい」の方向と筆使い</p> <p>○二画目と三画目の位置、右はらいはよく書けている作品が多かったです。</p> <p>△右はらいは意識して書くのですが、左はらいが短すぎたりそりすぎたりする作品が見られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・右はらいは筆圧を段々掛けて右下へ筆を動かし、一度止めてから、筆圧を弱めながら穂先をまとめ、はらうとよいです。</li> </ul>	 <p>△右はらいの終筆</p> <p>△二画目から三画目へのつながり △左はらいの方向</p>
将 来 の 夢	の	<p>③ 「曲がり」の筆使いと「はらい」</p> <p>○筆使いに気を付けて慎重に書いている作品が多かったです。</p> <p>△曲がりの位置が低すぎたり高すぎたりする作品がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始筆から左下へ運筆し、上へ筆をはねあげ、そこで一度筆を止めてから滑らかに曲がります。最後は、すっと力を抜きます。「毛が1本最後に残る」という指導が効果的です。筆の軸を指でくるくる回しながら書きません。軸は固定し、穂がねじれますが、丁寧に運筆します。</li> </ul>	 <p>△はらいの曲線や長さがよくない</p> <p>△はらいが短く、穂先がまとまっていない</p>
将 来 の 夢	夢	<p>④ 上下の組み立てと文字の中心</p> <p>○上下の組み立てのバランスをとって、用紙の下まで使ってしっかり書いた作品が多かったです。</p> <p>△「夕」の部分が斜めに倒れすぎたり、小さすぎたりする作品も見られました。</p> <p>△九画目が内側に向かっている作品が多く見られました。「左下に向かってはらう」は誤字なので注意しましょう。</p>	 <p>△文字の中心がずれている</p> <p>△上下の組み立てやバランス</p>

### ⑤ 全体のまとまり・筆勢について

○手本をよく見て丁寧に書いている、また、観点を意識して練習に取り組んだあとが見られ、まとまりのある作品が多かったです。

△丁寧に書こうとすることで、筆勢が失われたり、文字が小さくなったりしたのが見られました。細く太く、筆の特徴を生かして書くとよいでしょう。

△墨液が少なすぎて、かさかさにかすれた作品や、墨液を付けすぎて「な」の結びや「道」の首の隙間がつぶれてしまった作品がありました。また、筆をしっかり根元まで下ろし、毛の弾力を生かして書くことができるとういでしょう（5年）。

△名前も作品の一部です。硬筆の練習と関連させて、小筆の使い方や文字の大きさ、位置も考えて練習するとよいでしょう。割りばしペンで書いたようなもの、とめはね、はらいを意識していないのがありました。

△5年生は、敷き写しが複数ありました。

### <全体を通して>

・観点を児童へ示し、「ダメな例」を挙げると児童はわかりやすいようです。正しい字形を学ぶ際の言葉掛けの参考にしてください。

・起筆、終筆等、基本点画の練習が大切です。しっかりできるとよいと思います。

・筆を根元までおろし、毛の弾力を使って書くと、毛筆の特性を生かした豊かな線で書くことができます。筆のおろし方が足りなかったり、固まっていたりして、割り箸で書いたような固い線になっている作品がありました。日頃から筆の手入れに気を配ってほしいと思います。また、低学年の水書の学習等で、筆の弾力に日頃から親しむ体験を重ねることが、豊かな線を書けることにつながってきます。

・6年生は小学校の書写の学習の集大成となります。楷書の基本である筆の持ち方や始筆、送筆、終筆の筆使いができるように練習してみてください。